

2026年2月2日(月曜日)

日本教育新聞

『実践×理論で考える 組織マネジメントの連載(全4回)』に  
めぐみこども園の内容が特集されました

【洗足こども短期大学教授 井上 眞理子先生の講評】

聞

2026年(令和8年) 2月2日(月曜日)

(6)

## 幼稚園・保育園

### 実践×理論で考える 組織マネジメント

〈20〉



井上 眞理子

洗足こども  
短期大学教授

### 「転換点」見逃さず、組織の力へ

めぐみこども園園長 行事の見直しを進め 価ではなく「機能配 性づくりと、その前提 つくりました。重要な

の中戸華恵先生のマネ 置」と捉えるなら、組 となる環境整備を同時 のは「時間」を個人の

ジメントの特徴は、現 経験を持つS先生が 織の目的に最も資する に進めています。廊下 努力で捻出するのでは

場に生まれる小さな 「保育の楽しさを他の 人を役割に据えること の壁を取り払い、自然 なく、仕組みによって

「転換点」を見逃さず、 先生にも伝えていきた は合理的な選択です。 に声を掛け合える空間 創出している点です。

そこに人・役割・環境 いと舌を上げました。 役職と担う役割が一 を整えたことは単なる 限られた資源をどう再

といった要素を重ね合 異なる環境を知ってい 致したことで、S先生 改修ではありません。 配分するかという視点

わせ、組織の力へと編 るからこそ気付く違和 は「ワクワクする保育」 人の行動は、環境に は、リソース・マネジ

み直していく点です。 感「外部視点を持つ の実践知を正式な立場 も規定されます。語り メントそのものです。

「ワクワクする保育」 人材がもたらす変革の で園全体に広げること 合う姿が可視化される 重要なのは、手法の

への転換や行事を含む 芽」と言えます。中戸 ができました。これは、 模倣ではなく発想の転 模倣ではなく発想の転

保育の見直しは簡単に 先生は、その芽を園全 権限と責任を委ねるこ 換です。足りないもの

は踏み出せ ないテーマ して受け入

ですが、現 れ、その中で

場には日常 何ができるか

的に「良い方向に変え 体には波及させる役割と とで現場の自律性を高 の行為自体が園の文化 を考える積み重ねが組

たい」という兆しが生 して位置付けました。 めるエンパワーメント として学習されていき 織の持続可能性を支え

まれています。中戸先 その象徴が、S先生 型マネジメントと位置 ます。これは「仕組み ます。人、関係性、環

生は、その兆しを組織 への「主幹保育教諭」 付けられます。 境、資源を立体的に捉 え、転換点を組織の学

変革の起点として捉え いう役割付与です。 中戸先生は、保育者 習へとつなげる中戸先

てきました。 この判断は、人事を「評 同士の対話を促す関係 ローチです。

ICT化による業務 生のマネジメントは、

効率化と並行して園内 「ワクワクする保育」

に整備されたライブラ を園文化として根付か

リーは、良質な絵本や せているのです。

専門書に時間をかけず

アクセスできる環境を

次回は16日付掲載